

中播磨新地域ビジョン 骨子案

1 策定趣旨

中播磨地域の目指す将来像を示す中播磨地域ビジョンの策定(2001年)から20年、改訂(2011年)から10年が経過する中、深刻な人口減少、技術革新の急速な進展など社会情勢の急激な変化により、人々の暮らしや価値観、産業構造等も大きく変化していることから、2050年を展望する新たな中播磨地域ビジョンを策定する。

2 時代の潮流・背景

(1) 本格的な人口減少

- ・発足以降ほぼ一貫して増加してきた兵庫県の人口は2009年を境に減少に転じ、本格的な人口減少社会に突入(2050年の県人口は2015年比130万人減(24%減)の423万人、中播磨地域の人口は2015年比11万6千人減(20%減)の46万3千人となる推計)
- ・これまでの人口増加は、都市部の人口増加と地方部の過疎化が同時進行する偏在化の歩み。今後は、人口減少の速さが異なる局面に入っていく見込み

(2) 超高齢社会

- ・少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになり(2050年には全県で65歳以上が人口の約4割を占める見込み)、社会保障制度や社会基盤の維持が更に困難になる。
- ・医療技術の進展と健康志向の高まりで寿命は更に延び、人生100年時代が到来

(3) 気候変動

- ・地球温暖化が進み、異常気象が常態化する。気候変動は、人類の生存への最大のリスクとなる可能性がある。
- ・気候変動により風水害が激甚化(集中豪雨の増加等)する傾向にあり、未知の感染症の発生が増える可能性もある。

(4) テクノロジーの進化

- ・ICT(情報通信技術)の更なる進化により、現代のSociety4.0(情報社会)は今後、現実空間と仮想空間が融合するSociety5.0へ移行
- ・完全自動運転の普及、人の感情を理解し創造力すら発揮するAI(人工知能)の出現など、社会の有り様を激変させる未来のテクノロジー

(5) コロナ禍による地方回帰の兆し

- ・若い世代の価値観の変化や、場所にとらわれないテレワークの浸透などを背景に、地方で暮らし、働くことを求める動きが広がりつつある(コロナ禍で過密リスクの認識やテレワークが広がったことが、若者のローカル志向を後押し)

3 中播磨地域の現状・課題

◆滞在型でない観光

- ・姫路城だけを見て、他の地域に行ってしまう観光客が多く、滞在時間が短い。
- ・中播磨にはツーリズム素材は揃っているが、それらをどうコンパクトにまとめてアピールしていくかが課題

◆観光地へのアクセス問題

- ・姫路駅を軸とした扇状の交通網（姫路経由の公共交通）しかなく、郡部の観光地へ行くには二次交通問題が課題
- ・神崎郡への一次交通である播但線は利用が少なく、どのように維持していくかが課題（地域の公共交通を守るため、少しでも利用を増やすことが必要）

◆人口減少による過疎化の進行

- ・人口減少により、山間部では維持していくのが困難な集落が増加
- ・都市部への人口流出が止まらず、空き家の増加、耕作放棄地の増加等も進む。
- ・地域を活性化するために、外から人をどのように呼び込んでくるかが課題

◆空き家問題

- ・人口減少・人口流出等により空き家が増加
- ・価値がありストック活用できる空き家は改修され再利用されるが、状態が悪く放置された空き家はトラブルの原因（倒壊、放火、不法占拠等）
- ・空き家問題は郡部だけの問題ではなく、都市部ではもっと問題が大きくなる。

◆人材不足・後継者不足

- ・少子高齢化に伴い、各業種とも人材・後継者が不足（特に中小企業で顕著）
- ・農林水産業は、天候等の影響を受けやすく、労力的にも厳しいイメージがあり、若者から敬遠される傾向にある。
- ・超高齢社会において、医療・介護・福祉分野の人材不足は対策が急務

◆先端技術への対応・導入

- ・伝統技術を駆使したものづくり産業や、経験や勘に基づく農林水産業においても、先端技術（AI、IoT（Internet of Things：モノのインターネット）、ビッグデータ等）の導入により自動化・効率化・高度化が必要

◆農地が持つ多面的機能の喪失

- ・農業の担い手不足により、荒廃農地が増え、農地が持つ多面的機能（災害防止、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等）の喪失が懸念される。
- ・人口減少が進む中、農地の維持のため、担い手の確保はもとより、都市住民と生産者が互いに支え合える関係（つながり）づくりが必要
- ・兼業農家においては、後継者不在から農地の維持が困難になる可能性が高く、農地の権利移転や他用途利用など柔軟な利用のあり方の検討が必要

◆環境変化により漁獲量が減少

- ・漁業では、環境の変化（海水温の上昇、瀬戸内海の貧栄養化等）により漁獲量が減ってきている。
- ・環境の変化に対応するため、従来の「獲る漁業」から、多様な漁業の実現に向けた検討が必要

◆働き方改革への対応

- ・少子化に伴い労働力人口が減少する中、女性や高齢者等が働きやすい環境づくりが必要
- ・今の若者はお金儲けもさることながら、余裕のある働き方を求める傾向がある。

◆外国人労働力の受け入れ

- ・少子高齢化に伴う人材不足に対応するため、外国人労働力の受け入れは不可欠
- ・外国人とどのようにコミュニケーションをとるか、どう受け入れるかが課題

◆児童生徒数の減少と学校の小規模化

- ・児童生徒数は減少の一途
- ・学校数も統廃合により減少し、統廃合しても小規模化が進む。

◆学歴・偏差値重視の教育

- ・依然として学歴・偏差値を重視する傾向があり、個性が尊重されない。
- ・若者の地域への期待感の低さが課題（チャレンジする人を応援する環境や、失敗しても許される風土がない）

◆地域コミュニティが疲弊

- ・自治会加入率が高い中播磨地域においても、人口減少に伴う担い手不足、つながりの希薄化等により、従来どおりの地域運営が困難
- ・地域コミュニティが担う業務は膨大であり、今後、人口が減っていく中で引き継ぎ担い続けることは困難

◆高齢者の増加

- ・将来的に増加が見込まれる高齢者の一人世帯を見守る地域づくりが必要
- ・高齢者が社会とつながる居場所づくりの役割を果たす老人クラブは、会員が減少傾向（社会からの隔離による認知症リスクの高まり）

◆医療・介護・生活基盤の確保

- ・医療機関や介護サービスを受ける事業所が姫路市中心部に集中しているため、神崎郡では遠距離通所のための交通手段や、施設の選択肢の少なさが課題
- ・医療機関に限らず、移動・買い物等の生活基盤の確保は重要

◆防災意識が低い

- ・中播磨地域は、阪神・淡路大震災でも大きな被害を受けなかったこともあり、「中播磨は安全だ」と思い込んでいる人が多い（災害が少ないという過信）

4 基本姿勢

多様な地域に、個性が輝く中播磨

〈趣旨〉

都市部から自然豊かな地域まで多様な「地域」が集う中播磨において、個性豊かな「人」が自分らしく活躍する。

5 将来像（目指すべき中播磨の姿）

将来像 1：多様な人が行き交う「交流」中播磨

- ・地域資源を磨き上げることで、姫路城から姫路市北部、神崎郡、姫路港・家島諸島等への回遊性が高まり、観光客が中播磨全域をゆっくり滞在しながら巡っている。
- ・中播磨地域内外を問わず関係人口との交流が活発に行われ、UJI ターン等による多自然地域への移住者が増えることで、人口流出に歯止めが掛かり、地域が活性化している。

将来像 2：新たな力が生まれ続ける「活力」中播磨

- ・中播磨地域が誇るものづくり産業や豊かな自然を生かした農林水産業等が、先端技術（AI、IoT、ビッグデータ等）の活用や多様な働き方の導入等により、その魅力を増しながら、地域に活力をもたらしている。
- ・人生のあらゆるステージで、新しいことにチャレンジする人を応援する環境（いつでもチャレンジし、何度でもチャレンジし直せる環境）が整っており、子どもたちの個性を伸ばすことで、優れた才能を多数輩出している。

将来像 3：ステキなご近所さんで支え合う「つながり」中播磨

- ・ライフスタイルや働き方、価値観等の変化に対応しながら、若者など多様な人が参画する新たな地域コミュニティが確立され、円滑な地域運営が行われている。
- ・健康づくりや子育て、地域福祉など毎日の暮らしにおいて、困りごとを共有し気軽に頼り合える「ステキなご近所さん」による支え合いが行われ、誰もが暮らしやすい地域づくりが実現している。

将来像 4：次代に受け継ぐ「ふるさと」中播磨

- ・人々の生活を支える中播磨の豊かな自然環境、子どもから高齢者まで快適に暮らせる安全安心なまち、そこに息づく秋祭りをはじめとする伝統文化、これらすべてを包み込む「ふるさと」中播磨が世代を超えて受け継がれている。

6 行動目標

将来像 1：多様な人が行き交う「交流」中播磨

○姫路城に続け！地域資源を磨く

- ・姫路城プラスαの観光資源として、日本遺産である「銀の馬車道・鉾石の道」や、ロケ地としても有名な書写山・砥峰高原等、播磨灘の自然や海の幸が楽しめる姫路港・家島諸島等の地域資源とともに、都市部ではできない非日常の「体験」（農業体験、漁業体験、歴史文化体験等）などを活用し、中播磨全体で一つのツーリズムを確立
- ・地域資源の活用は、その地域の自然・歴史・文化等の背景を反映させた魅力づくり等の工夫を行うことで、あまりお金や労力を掛けず「ありのまま」を観光資源にしていく。

○みんな「おかえり」！温かく迎え入れる

- ・新しく来る人（UJI ターン等の移住者、外国人等）や、地元に残っている人、秋祭りに参加するために帰省する人、定期的に交流している人等を、みんなまとめて家族のように「おかえり」と温かく迎え入れる開放的で寛容な地域を目指す。
- ・「よそ者」（目の付けどころが違う地域外の人）目線で地域の魅力を見つめ直し、交流の新しい切り口を探ることで、関係人口の創出を図り、移住・定住の促進につなげる。

○積極アピール！魅力や情報を発信する

- ・文化や食、産業など世界に誇る中播磨の魅力を、地域内外に自信を持って積極的にアピールすることで、地元住民による魅力の再発見・再認識を促すとともに、国内外から注目を集める中播磨を目指す。
- ・社会全体のデジタル化が進む中、最先端の ICT を活用した情報発信ツールやコミュニケーションツールを使うことで、国内外を問わず多くの人に効果的に魅力や情報を発信する。
- ・ICT 環境の高度化（高水準の ICT インフラ整備等）を図ることで、誰もがどこでも快適に通信し、容易にデータを利活用できる環境づくりを進める。

○どこでもアクセス！持続可能な交通をつくる・つかう

- ・「交流」の基盤となる交通については、自動運転など先端技術の発達に伴う移動の広域化も考慮した上で、道路網の整備や鉄道（播但線、姫新線等）の維持・活用等による一次交通の充実を図るとともに、観光地へのアクセスや地域内移動のための二次交通（超小型モビリティ、レンタサイクル等）の整備を進める。
- ・一次交通・二次交通ともに、各地域の特性に応じた持続可能な交通を整備し、利用することで、地域の伝統・自然環境・生活等を守り支える。

○伝統×革新！ものづくり力に磨きをかける

- ・先端技術の活用により中播磨地域の強み（ものづくり産業、地場産業等）に磨きをかけ、伝統技術と革新技術の融合による新産業の育成、労働生産性の向上等を図る。
- ・中播磨のものづくり力を生かした次世代産業（航空宇宙等）や新産業（脱炭素社会の実現に向けた製造業による水素関連事業の新規展開等）からニッチ産業まで、新たな時代に対応した魅力的な産業が生まれ続けるサイクルを創出
- ・産業の魅力を伝える機会を幅広く用意するとともに、就労に必要な知識や技術を学ぶ場を設けることで、中播磨地域が誇る魅力的な産業を担う次世代の人材が続々と集まり、育つ社会を目指す。

○広がる担い手！多様な農林水産業で暮らしを支える

- ・スマート農業やスマート水産業など先端技術の活用による効率化等を進め、担い手のみならず兼業農家も含めた多様な主体によって、将来にわたる生産力の確保を目指す。
- ・自然を相手にする農林水産業においても、若者の価値観に合わせた余裕ある労働環境の実現（週休2日制の導入等）を図る。
- ・地域生産者のこだわりや思い等の魅力を情報発信することにより、地域農林水産物のファンを増やす。
- ・手作業にこだわり農作物を育てる「趣味の農業」や、農林水産業の体験を通じて、食や「農」の役割等への理解を促進する。
- ・豊かな海の再生に加えて、漁場環境の変化に対応できる「育てる漁業」の導入など、持続可能な漁業の確立を目指す。
- ・植林・保育・伐採・利用のサイクルが継続する資源循環型林業の確立を目指すとともに、地球温暖化防止や水源の涵養など森林が有する多面的機能の維持・保全に向けて、地域の財産である森林の適切な整備・管理を進める。

○誰もがキラリ☆自分らしい働き方を選び・輝く

- ・起業、副業、フリーランスなど多様な働き方を推進することで、誰もが人生のそれぞれのステージで自分に合った働き方を選択でき、その能力を生かして活躍できる社会を目指す。
- ・多様なライフスタイルやライフステージに応じた働き方の選択肢（本業と副業・兼業、フルタイムとパートタイム、大規模と小規模、ビジネスと趣味・働きがい等）を増やし、若者や女性、高齢者、外国人等の活躍を促進する。

○個性爆発！学びとチャレンジを応援する

- ・あらゆる子どもたちが自分の個性や能力を開花させ、いきいきと学ぶことができる多様な教育環境を目指す。
- ・「教育」という共通の関心事をきっかけに地域が集い、学校と地域が一体となって子どもたちの学びとチャレンジを応援
- ・オンライン教育を活用しながらも、オンラインでは養われないリアルな体験や、空気・息づかいの共有等を通して、コミュニケーション能力や協調性、社会性等を育む。

○祭りで団結！ご近所力を高める

- ・従来の地縁型組織による地域運営が限界を迎える中、地域コミュニティが担う仕事を整理（スクラップ&ビルド）するとともに、行政と住民の間に新たな中間組織（プロフェッショナルな外部人材等）を配置するなど、地域コミュニティのアップデートを図る。
- ・中播磨地域の風物詩である秋祭り等を通して多世代がつながり、子育てや介護など家庭が抱える悩みを地域ぐるみで解決する「ご近所力」を育む。

○あふれる笑顔！子どもの成長をみんなで見守る

- ・地域の宝である子どもを安心して産み育てられるよう、保育の受け皿確保（保育所、認定こども園の整備等）や保育人材の育成、子育てに係る経済的負担の軽減など子育て環境の充実を図ることで、出生数の増加を目指す。
- ・SNSなど子どもたちのトラブルが親にも見えにくくなる中、シニア世代・事業者・地域コミュニティなど多様な主体のサポート・見守りにより、地域ぐるみの子育て支援を展開

○いきいき長生き！住み慣れた地域で健康な暮らしを支え合う

- ・医療提供体制の充実（病院整備、医療人材確保等）や先端技術の活用（オンライン診療等）などにより誰もが安心して医療を受けられ、日々の健康づくり活動やスポーツ等を通じて心身ともに健康に暮らせる社会づくりを進めることで、健康寿命の延伸を図る。
- ・地域の医師、看護師、介護関係者、自治会、ボランティア等の連携により、住み慣れた地域での暮らしを守る「在宅医療」を地域ぐるみで支える。
- ・介護・福祉人材の育成や介護ロボットなど先端技術の導入等により高齢者や障害者等を支援する体制を整備し、誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせる環境づくりを進める。
- ・経験を生かして地域で就労するなど、誰もが自分の能力を発揮して地域や社会に関わり、生きがいを持って暮らすことができる社会を目指す。

○みんな違って当たり前！多様性を認め合う

- ・性別や年齢、障害の有無、国籍、宗教、文化の違い、性的指向・性自認（LGBT等）など、多様性を認め合い尊重し合うことで、個性豊かなあらゆる人を包摂する社会を目指す。
- ・外国人実習生をはじめとする外国人県民の増加や多国籍化が進む中、互いの歴史的背景等を理解し、多様な文化を認め合うことで、多文化共生社会の実現を図る。

将来像4：次代に受け継ぐ「ふるさと」中播磨

○Re デザイン！快適なまちをつくる

- ・都市部、自然豊かな地域、歴史文化が息づく地域など、多様な地域が集まる広い中播磨を一律で考えるのではなく、それぞれの地域の個性を生かしたまちづくりを行う。
- ・人口の減少・偏在化や高齢化、風水害の激甚化等を見据えながら、居住エリアや土地利用、施設配置等を見直すなど、時代や価値観の変化に対応したまちづくりを行い、子どもから高齢者まで快適に暮らせる空間を形成

○次の世代へ！豊かな自然を守り・育む

- ・脱炭素に向け、温室効果ガスの排出抑制や多様な再生可能エネルギーの導入等を進めるとともに、生物多様性の確保や森林・農地の持つ多面的機能の維持・保全など人と自然の共生を図ることで、中播磨の豊かな自然環境を保全・再生・創造し、次代へ受け継ぐ。
- ・子どものうちから環境の大切さを教える環境学習を行うとともに、中播磨の持つ産業のポテンシャル（ものづくり産業等）を生かし、地域の環境保全に貢献する中播磨発の環境ビジネスを展開

○備えあれば憂いなし！安全安心な暮らしを守る

- ・災害に強い社会基盤の形成や地域防災力の強化によりソフト・ハード両面からの防災・減災対策を進めるとともに、感染症対策や、犯罪・交通事故・消費者被害等への対策を講じることで、安全安心な暮らしを守る。
- ・特に中播磨地域は災害が少ないと過信している住民が多いため、一人一人の防災意識を向上させることで、災害時に機能する自主防災組織づくりを進め、共助（ご近所力）による地域防災力の強化を図る。

○ヨイヤサ！伝統文化を次代に受け継ぐ

- ・中播磨が誇る伝統文化（姫路城などの歴史文化資源、灘のけんか祭りなどの播州秋祭り等）や日々の暮らしを楽しく豊かにする芸術文化、中播磨の風土が育んだ食文化等を、これらを支える住民とともに次代に受け継ぐ。
- ・秋祭りなど地域行事への子どもの参加率が高い中播磨地域の強みを生かし、祭りでの多世代交流や高齢者からの昔遊びの伝承等を通して、郷土愛やふるさと意識の醸成を図る。

7 取組アイデア案

- ・中播磨地域ビジョンが描く将来像を実現するためには、県民、事業者、団体、NPO、行政など多様な主体が、具体的な行動に移していくことが必要である。
- ・本ビジョン策定に向けた県民との意見交換会等で得られた県民意見等のうち、将来像の実現のヒントとなるアイデアを、16 の行動目標ごとに取組アイデア案として紹介する。

将来像 1：多様な人が行き交う「交流」中播磨

○姫路城に続け！地域資源を磨く

- 秋祭り等の伝統行事に観光客など外部の人にも参加してもらうことで、体験型の観光資源として活用する（人口減少下における伝統行事等の担い手不足の解決にもつながる）
- 農業体験（田植え・収穫・味覚体験等）を観光資源として活用する（田植えから収穫まで定期的に交流）
- バーチャルリアリティ（VR：仮想現実）技術を活用した VR 観光（自宅等で観光地を疑似体験）により観光資源や地域資源の魅力を伝え、実際に現地を訪れるリアルな観光につなげる。

○みんな「おかえり」！温かく迎え入れる

- 農業体験、サイクリング、あぜ道散歩、大学生の研究活動など訪れる側（関係人口）のニーズに応じた交流メニューを考案する。
- おもてなしするばかりでなく、関係人口にも地域の困りごと（草刈り、耕作放棄地の整備等）を助けてもらう（win-win の関係づくり）
- 地域の宝である空き家は、コワーキングスペースや宿泊施設など関係人口との交流施設として利活用する。状態が悪く再利用できない空き家は、適正な維持管理を図るとともに、発想の転換により新たな活用方法を見出す。
- 移住者同士がつながり、情報交換等を行う場として移住者コミュニティをつくることで、移住者の円滑な受け入れや、地域への早期の溶け込みを後押しする。

○積極アピール！魅力や情報を発信する

- 地元のオンリーワン企業や先進的な取組をしている企業等を、駅のエントランスに看板等で表示して地域資源としてアピールする（中小企業等への就職希望者の増加につながる）
- 地域コミュニティ内の連絡手段として SNS を活用するなど、地域における情報共有のデジタル化を進める。
- VR や AR（拡張現実）、動画など、視覚的・体感的に分かりやすく伝わるツールを活用することで、質の高い情報発信を行う。

○どこでもアクセス！持続可能な交通をつくる・つかう

- 昔ながらの町並みを保存するため、町内の移動手段として超小型モビリティを導入する。
- 少子高齢化が進む集落において、パターンダイヤを導入するなど観光客が利用しやすいようにコミュニティバスを運行する（観光客の利用により地域交通を維持）
- 駅やバス停に駐車場の整備を進め、パーク＆ライドを推進することで、公共交通機関の利用を促進する。また、ゾーン運賃制の導入などシームレス性（乗り継ぎのしやすさ）を高め、公共交通の利便性の向上を図る。
- サイクリングモデルルート「銀の馬車道 鉱石の道周遊ルート」等を楽しむサイクリストが安全・快適に走行できるよう、自転車レーンや自転車向けの標識・路面表示、自転車ラックなどの環境整備を行う。
- ICT を活用して電車やバス、タクシーからライドシェア、シェアサイクルといったあらゆる交通手段をシームレスに結びつける MaaS (Mobility as a Service) の導入により、交通サービスを効率よく便利に利用する。

将来像2：新たな力が生まれ続ける「活力」中播磨

○伝統×革新！ものづくり力に磨きをかける

- AI はデータの種類や量が多いほど良い結果を出せるため、AI 活用に取り組む企業・団体等で「中播磨 AI 活用プラットフォーム」を構築し、中播磨全体で AI 活用による産業の高度化を図る。
- 水素受入基地の立地ポテンシャルが高い姫路港や、火力発電所や鉄鋼・化学メーカー等の水素ユーザーが集積する中播磨地域の強みを生かし、製造業等のものづくり企業が水素関連分野の技術開発や新事業展開等を行う。
- 伝統を受け継ぐ地場産業において、若者の感覚を取り入れてデザイン性を高めるなど、新たな発想によりブランド力を向上させることで、活性化を図る。
- 魅力的な産業を体験する場（産業学習、産業ツーリズム等）を入り口として、より深く専門的に学ぶ場（ものづくり大学校、大学でのリカレント教育等）につなぐことで、人材を育成・誘致する。

○広がる担い手！多様な農林水産業で暮らしを支える

- 農作業の省力化と製品の高品質化等を図るため、ドローンによるセンシングデータ収集・活用や気象データ等の AI 解析等を推進する。
- 食や「農」への理解者を増やすため、都市住民に対し、手作業にこだわる「趣味の農業」の普及・推進や農林水産業の体験機会を増大する。
- 地域生産物のファンづくりを進めるため、様々なこだわりや思いを持った農業者や漁業者等をイメージキャラクター化して PR するなど、親しみやすさと分かりやすさを重視して、生産者の情報を発信する。

○誰もがキラリ☆自分らしい働き方を選び・輝く

- 希望する働き方とそれに見合った仕事をマッチングする情報センターのような組織やネットワークを整備する。
- 自然環境に恵まれ、都市部（姫路）にも近い家島を、クリエイター向けの活動拠点（ワーケーション、テレワーク等）としてPRする。
- 事業者は、多様な勤務形態の導入や、仕事と育児・介護を両立するための制度の充実等に取り組むことで、従業員のワークライフバランスの実現を図る。
- 自己資金でのチャレンジが難しいスタートアップや新事業展開は、行政等のサポート（資金、技術、ノウハウ等）によりリスクを軽減する。

○個性爆発！学びとチャレンジを応援する

- 個性に特化した教育を実践することで、アーティストや技術者、アスリート等の優れた技術や才能を発掘する。
- 地域住民が積極的に参画することで、教員の活躍を応援し、学校をサポートする（地域住民が自身の知恵や技術・ノウハウを生かして昔遊び等の授業や部活動を手助け）
- 児童生徒数の少ない小規模校のメリット（小さいからこそその機動性、子どもを取り結ぶ関係性の密度や多様性等）を生かした教育を行う。

将来像3：ステキなご近所さんで支え合う「つながり」中播磨

○祭りで団結！ご近所力を高める

- 行政と住民をつなぐ役割として、地域コミュニティにコーディネーター（有償の外部人材）を配置する。
- 秋祭りの練習や準備等を通して、同じ地域でも普段交流のない若者と高齢者などが、世代を超えて付き合いを深める。
- ご近所力を高める活動として、住民全員参加の草刈りを実施する（子どもとの交流・教育の場、高齢者の健康状態確認の場として活用）

○あふれる笑顔！子どもの成長をみんなで見守る

- 親が子育てに関する悩みを気安く相談できる場所をつくる。
- 男性が育児休暇を取るなど積極的に育児に参加することで、母親に集中する子育ての負担を軽減する。
- 登下校時の見守り・声掛けなど、シニア世代や事業者など地域社会全体の多くの目による見守り活動を行う。
- 事業者は、企業内保育所や、保育スペースを併設したサテライトオフィスを設置するなど、子育てをしやすい職場環境づくりを進める。

○いきいき長生き！住み慣れた地域で健康な暮らしを支える

- 「地域お助け隊・人材バンク」（退職前の職業をデータ化し、自治会内で人材バンクを構成）を組織して得意分野で助け合う。

- 高齢者の一人暮らしや引きこもりを防止するため、二世帯住宅へのインセンティブを設ける。
- ご近所ボランティア（ゴミ出し等の困りごとを近所で有償で助け合うシステム）を導入する。
- 地域の中でスポーツ活動を行う場（スポーツサークル、スポーツ大会等）を増やすことで、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進める。
- 自宅や学校、職場とは別のサードプレイスをつくることで、心身のリフレッシュを図る（自己肯定意識の向上や、自殺・過労死等の抑止につながる）
- 健診データや診療データ等のビッグデータを活用して、個々人のデータに基づく自身に合った健康づくり活動に取り組む。

○みんな違って当たり前！多様性を認め合う

- 外国人が地域の一住民として馴染めるよう、地域の伝統文化や風習等を知る機会をつくる（外国人向け伝統文化講座等）
- 外国人が安心して医療サービスを受けられるよう、医療通訳体制を充実させる。
- ICT の活用により多言語音声翻訳を実現することで、言語の異なる様々な国の人同士のコミュニケーションを可能にする。
- 性的指向・性自認に関するハラスメントへの社内規定の策定や、性的指向・性自認に関して相談できる窓口の設置等を進める。

将来像 4：次代に受け継ぐ「ふるさと」中播磨

○Re デザイン！快適なまちをつくる

- 学校、病院、高齢者福祉施設、商業施設、公園などを融合・集約したまちづくりを行う。
- 地域の実情に応じて、市街化調整区域など土地利用のあり方を見直し、より住みやすい地域づくりを進める。
- ICT 等の活用により社会基盤を効率的に管理・運営し、生活の質の向上や社会課題の解決等を図るスマートシティ構想を推進することで、快適性や利便性の高い社会サービスを提供する。

○次の世代へ！豊かな自然を守り・育む

- 子どもたちが自由に自然環境に触れることができる場をつくる。
- 上流の森林が荒れると里山の保水性が失われ、下流の河川の水害につながることから、街中（下流）の人が山（上流）の管理等を手伝う。
- 火力発電所や LNG 基地等が立地する国際拠点港湾「姫路港」に水素供給の拠点となる水素受入基地を整備するとともに、水素発電の導入や、製造から利用に至る水素サプライチェーンの構築等を行うことで、脱炭素を進める。
- 食物残渣を使った堆肥など、フードロスを活用したビジネスを展開する。

- 大量生産・大量消費・大量廃棄から脱却し、温室効果ガス排出実質ゼロのカーボンニュートラルな社会・暮らしを推進する。

○備えあれば憂いなし！安全安心な暮らしを守る

- 防災リーダーは、自分が受講した防災研修の内容を地域内の他の人に共有して、地域防災力の底上げを図る。
- 地域には、防災士や救命救急士、看護師、介護士、ヘルパー等の資格を持っている人もいますので、そうした人的資源の把握・活用を進める。
- まちの顔である駅前に交番を配置することで、犯罪を抑止する。
- 災害など有事の際に、SNS 等での発信情報を活用して被害状況等を迅速に把握することで、二次的・三次的な被害の拡大を防ぐ。

○ヨイヤサ！伝統文化を次代に受け継ぐ

- 中播磨地域内に点在するミュージアムの魅力向上と相互連携を行い、まちの文化度を向上させる。
- 地域住民が自身の知恵や技術・ノウハウを生かして、子どもたちにコマ回しなどの昔遊びを教える（高齢者など地域住民の生きがいくくりにもつながる）
- 子どもどものときから郷土の偉人について教えることで、ふるさとへの誇り・愛着を高める。

8 中播磨地域ビジョンと SDGs

(1) SDGs とは

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略称で、2015年の国連サミットで定められた国際的な目標。地球上の限りある資源を活用し、全ての人々が平和で豊かな暮らしを将来まで続けられることを目指すもの。「誰一人取り残さない」ことを基本に、17の目標と169の課題で構成され、2030年までに達成することが求められている。

【17の目標】



(2) 中播磨地域ビジョンと SDGs の関係

- ・SDGsは、世界が直面する社会課題を幅広くカバーしており、中播磨地域ビジョンの実現に向け、多様な主体（県民、事業者、団体、NPO、行政等）が取り組むべき課題とも重なる。
- ・本ビジョンにおいて、県民、事業者、団体、NPO、行政等が自身の活動と世界的な目標であるSDGsとの関わりを確認できるよう、16の行動目標と関連するSDGsの目標を参考に明示する。

行動目標	関連するSDGsの目標
姫路城に続け！ 地域資源を磨く	
みんな「おかえり」！ 温かく迎え入れる	 
積極アピール！ 魅力や情報を発信する	
どこでもアクセス！ 持続可能な交通をつくる・つかう	 

<p>伝統×革新！ ものづくり力に磨きをかける</p>	
<p>広がる担い手！ 多様な農林水産業で暮らしを支える</p>	
<p>誰もがキラリ☆ 自分らしい働き方を選び・輝く</p>	
<p>個性爆発！ 学びとチャレンジを応援する</p>	
<p>祭りで団結！ ご近所力を高める</p>	
<p>あふれる笑顔！ 子どもの成長をみんなで見守る</p>	
<p>いきいき長生き！住み慣れた地域で 健康な暮らしを支え合う</p>	
<p>みんな違って当たり前！ 多様性を認め合う</p>	
<p>Re デザイン！ 快適なまちをつくる</p>	
<p>次の世代へ！ 豊かな自然を守り・育む</p>	
<p>備えあれば憂いなし！ 安全安心な暮らしを守る</p>	
<p>ヨイヤサ！ 伝統文化を次代に受け継ぐ</p>	